

内幸町一丁目北特定街区

内幸町一丁目北地区再開発等促進区を定める地区計画

都市計画（素案）の概要

エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社

中央日本土地建物株式会社

三井不動産株式会社

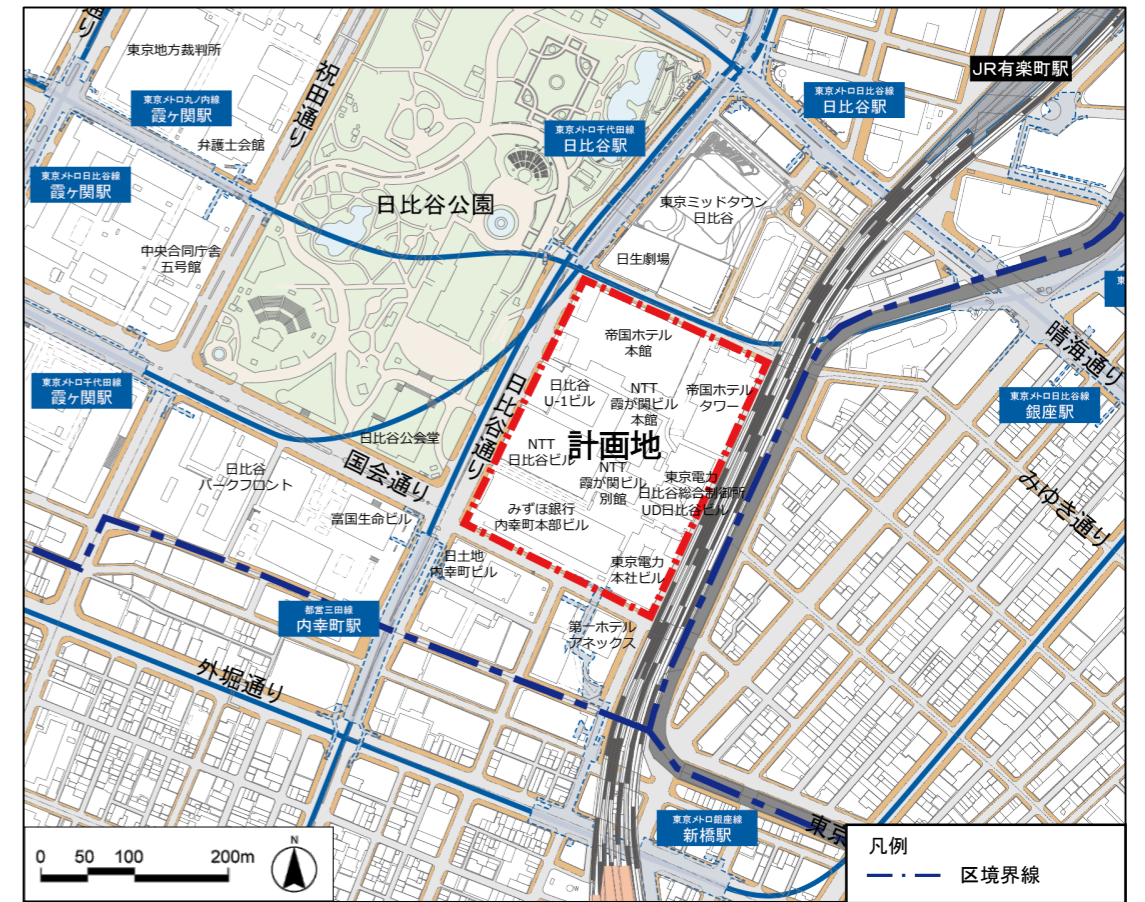
■ 計画概要

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

■ 計画概要

計画地の位置	東京都千代田区内幸町一丁目一番				
地域地区等	商業地域、防火地域、都市再生緊急整備地域				
都市計画手法	特定街区、再開発等促進区を定める地区計画				
指定容積率	900%				
基準建蔽率	80%(防火地域内の耐火建築物により100%)				
都市計画の区域面積	約6.5ha				
街区別諸元	全体	北地区		中地区	南地区
		新本館	ノースタワー	セントラルタワー	サウスタワー
敷地面積	約6.5ha	約2.4ha		約2.2ha	約1.9ha
計画容積率	-	約1,340%		約1,320%	約1,340%
建築物の高さの最高限度	-	約145m	約230m	約230m	約230m
主要用途	-	ホテル、宴会場等	オフィス、商業、サービスアパートメント、住宅等	オフィス、商業、ホテル、音楽ホール、宴会場、産業支援施設等	オフィス、商業、ホテル、ウェルネス促進施設等
延床面積	約110万㎡	約15万㎡	約27万㎡	約37万㎡	約31万㎡
容積対象床面積	約86万㎡	約10万㎡	約22万㎡	約29万㎡	約25万㎡
駐車等台数	約2,000台	約900台		約600台	約500台
階数	-	地下4階 地上29階	地下4階 地上46階	地下6階 地上46階	地下5階 地上43階

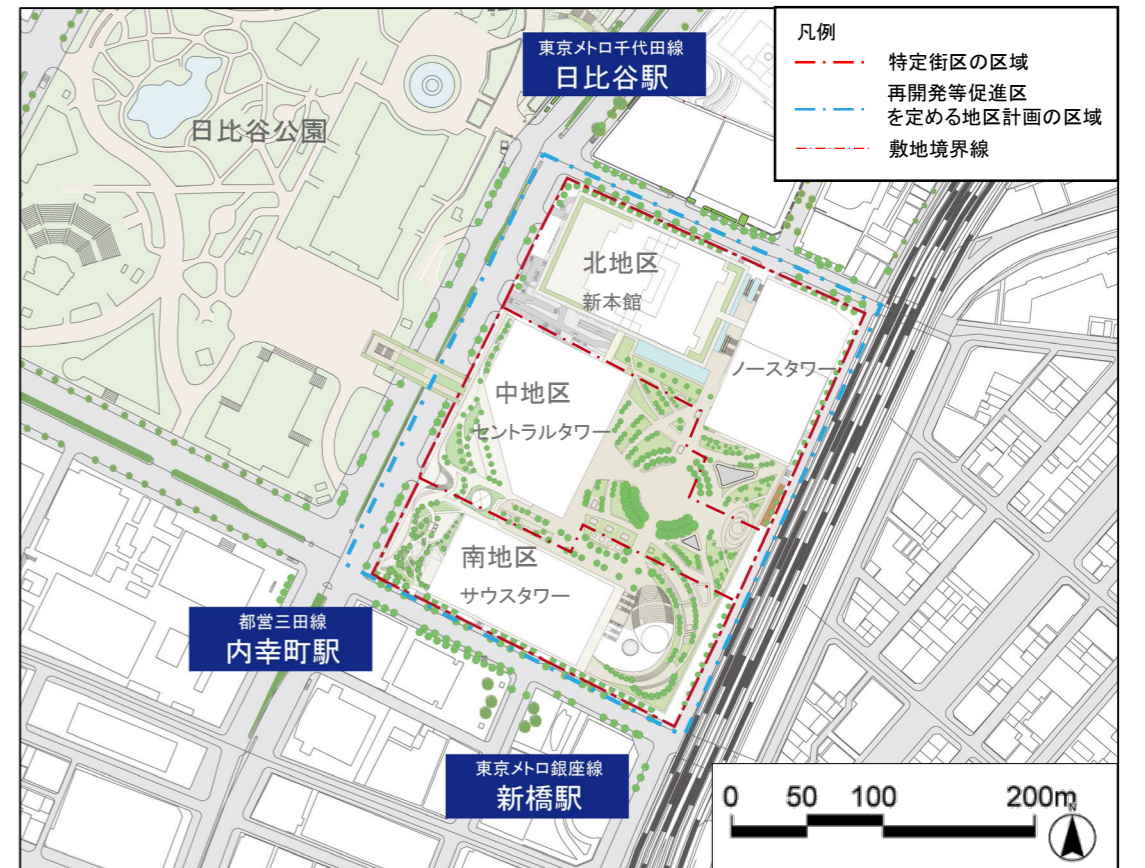
■ 位置図 (S=1 : 8000)



■ イメージパース



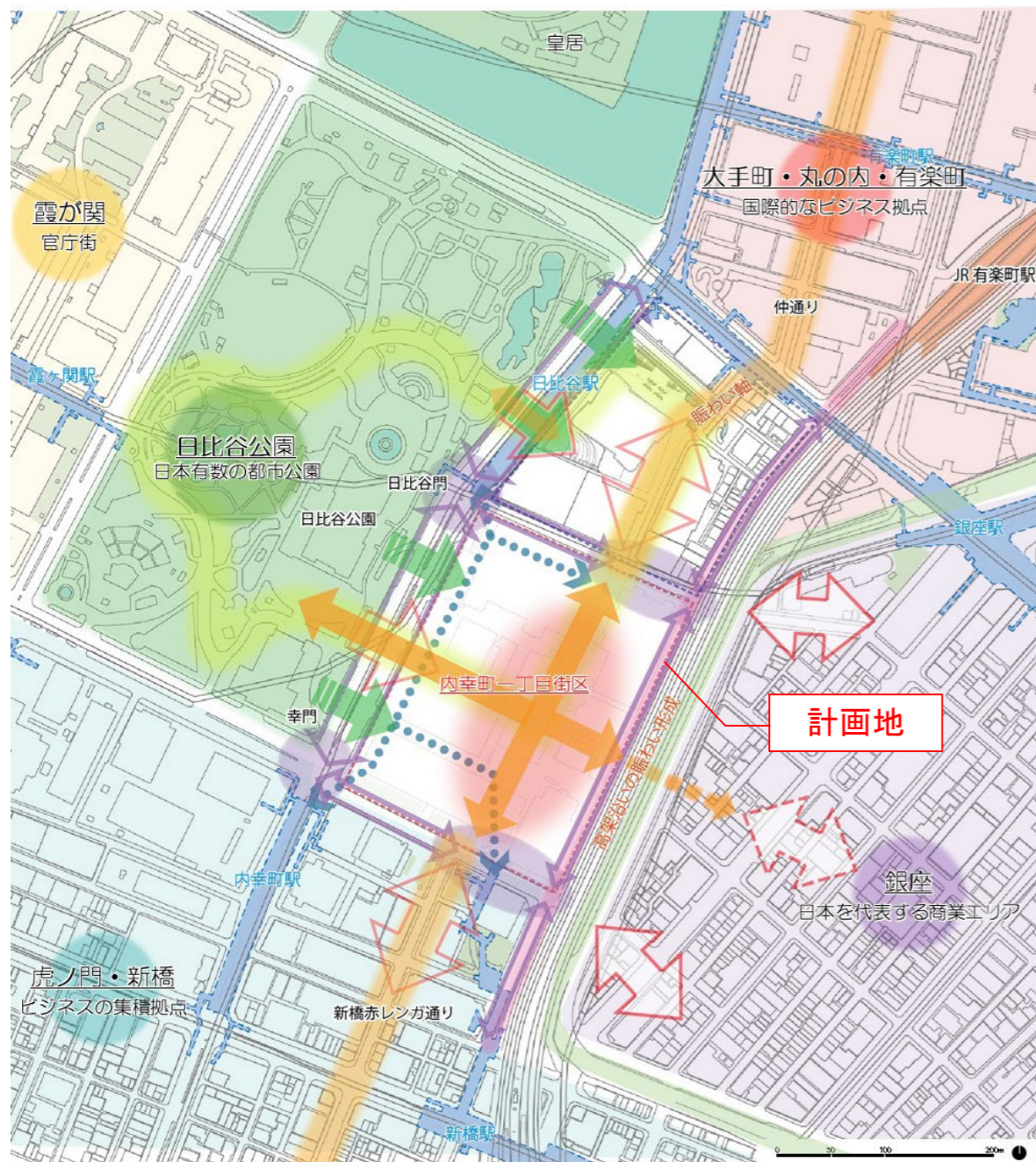
■ 配置図



■本開発が果たす役割

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

<p>国) 特定都市再生緊急整備地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日比谷公園の環境を生かした、多様な都市機能が複合した賑わいと回遊性のある都心拠点の形成 ○周辺エリアとつながる緑豊かな回遊拠点の形成
<p>東京都) 都市づくりのグランドデザイン 日比谷公園再生整備計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○オフィスビル、商業施設、劇場や映画館などの施設を生かした、国際的な芸術・文化、宿泊、エンターテインメント機能などが高度に集積し、にぎわいや交流の生まれる拠点を形成 ○日比谷公園と連続する広場や歩行者空間の充実など、回遊性の高いエリアを形成 ○都市公園等と周辺のまちづくりが連携して、その地域のにぎわいや回遊性、緑の連続性、防災機能の向上を図る ○公園とまちをデッキでつなぎ、公園の広場空間をまちへ広げ、新たな視点場や賑わいと交流の結節点を造って回遊性を高めていく
<p>千代田区) 千代田区都市計画マスタープラン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日比谷公園の歴史性や既存の劇場、映画館などとともに、業務機能と商業・文化交流機能の複合的な魅力を充実させ、歴史と文化を感じ、風格と回遊性のあるまちをつくる ○日比谷公園から緑を連続させ、都心の眺望を楽しめる空間の創出、東京高速道路（KK線）の緑の空中回廊化による再生との連携を図る



内幸町周辺の目指す将来像

日本を代表する迎賓交流拠点の再構築・街区規模を生かした快適業務空間の創出を図りながら、周辺地区・日比谷公園とつながる緑あふれる開かれた街区を形成することにより、世界に誇れる都心拠点にふさわしい、風格あるまちづくりを推進する。

日比谷エリアまちづくり基本構想(平成23年6月)

内幸町一丁目街区では、首都機能を支えるインフラ施設等の機能を継続しながら、街区一体となったまちづくりを図るとともに、日比谷公園、大丸有地区・有楽町一丁目街区、虎ノ門・新橋地区の結節点として、開かれた街区とするため、地下・地上、デッキレベルを活用して、回遊性の高い歩行者ネットワークの形成やインフラ施設の保全、日比谷公園のみどりを引き込むなど潤いや賑わいを創出し、防災性の向上を図る大規模広場空間を創出する。あわせて、国際迎賓・文化・交流機能の拡充等により、国際ビジネス交流拠点を形成する。

内幸町一丁目街区まちづくりガイドライン(令和3年4月)

■整備方針

- 1. 歩行者ネットワーク**
 - ・ 駅・まち・公園を一体で結んだ歩きたくなる立体回遊ネットワークの形成
- 2. 広場空間**
 - ・ 公園と周辺の個性的なエリアを結ぶ拠点となる多様な活動を生む広場の創出
- 3. みどり・環境**
 - ・ 皇居・日比谷公園からまちへと広げるみどりのネットワークの拠点の形成
- 4. 景観**
 - ・ 都心拠点としての個性と周辺エリアとの調和が共存した都市景観の形成
 - ・ 日比谷公園との繋りと歴史・風格・賑わい・潤い等の特性を活かした沿道景観の形成
- 5. 安全・安心**
 - ・ 街区の特性を活かした内幸町らしい環境・防災まちづくりの推進
- 6. 拠点形成**
 - ・ 周辺の特徴あるエリアをつなぐ個性ある新たな都心拠点の形成

首都中枢を支える重要機能を継続更新しながら、周辺のまちに開かれた都市基盤の整備・国際迎賓・文化・交流機能の拡充等より国際ビジネス交流拠点を形成

■都市再生への貢献

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

I. 駅・まち・公園一体の都市基盤整備によるまちへ開かれた街区の形成

- ①都心重要インフラ（電力・通信施設・迎賓機能等）の更新と大規模広場の整備による周辺のまちへ開かれた賑わいあふれる街区の形成
- ②地下・地上結節空間や日比谷公園とつながる道路上空公園等の整備による駅・まち・公園一体の歩行者ネットワークの形成

II. より高度なスマートシティの実現による国際ビジネス交流拠点の強化

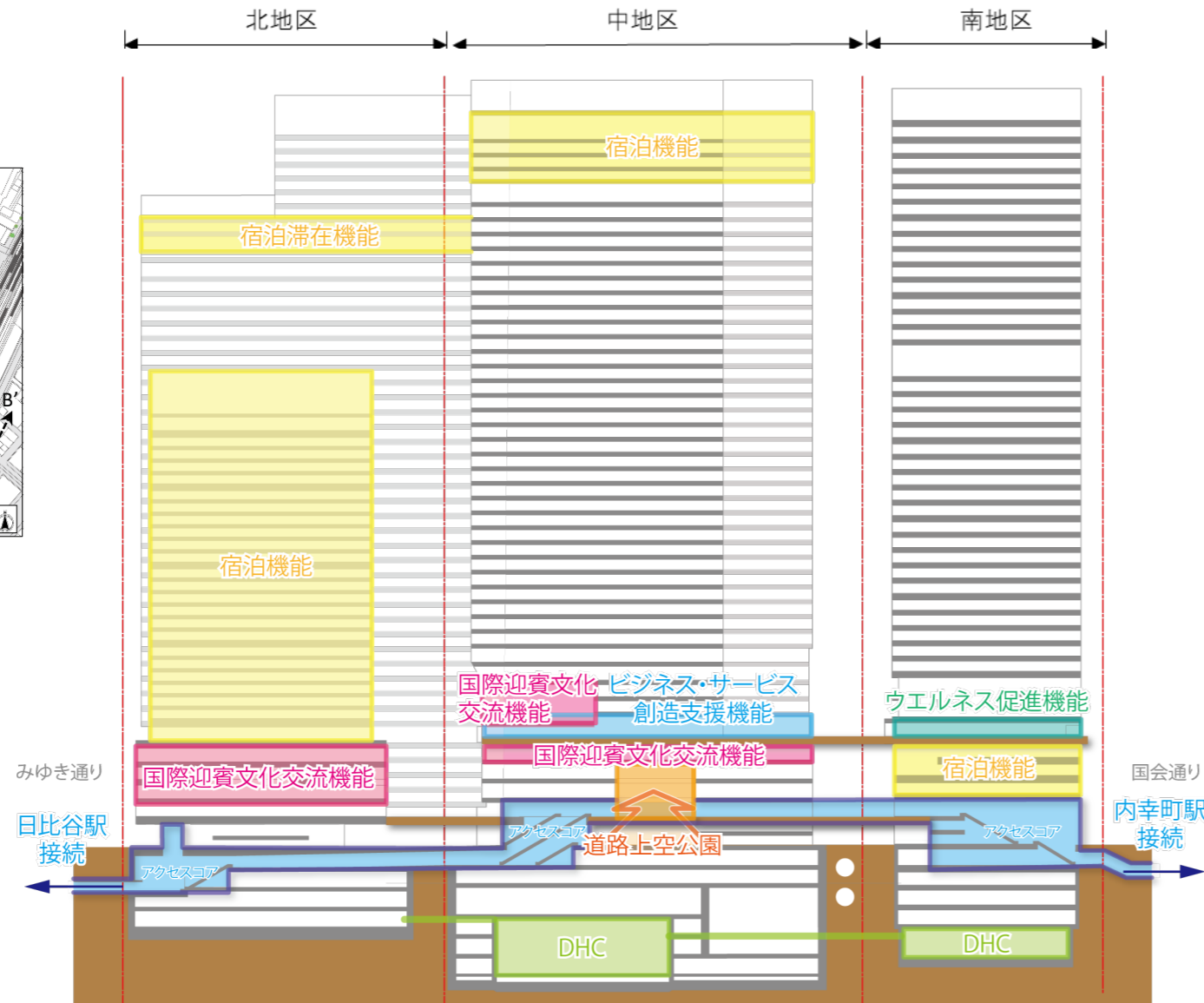
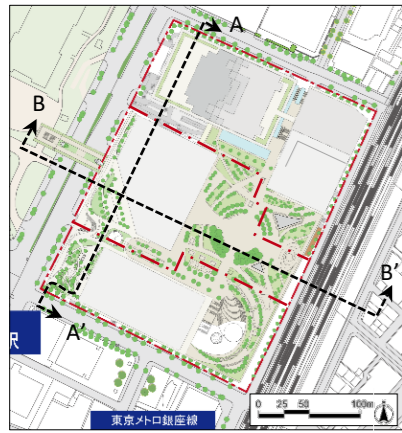
- ①より高度な都市OS（情報基盤）等の整備
- ②都市OS（情報基盤）等を活用したビジネスサービス創造支援機能、国際迎賓文化交流機能、ウェルネス促進機能の強化

III. 高度防災・環境都市づくりの推進

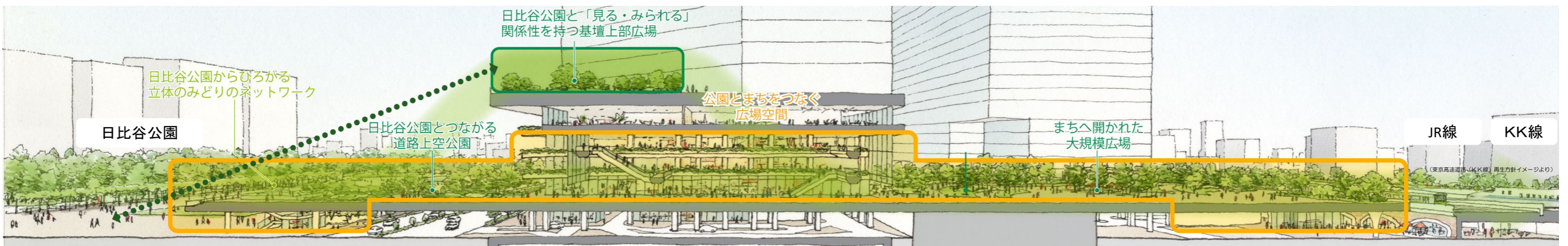
- ①脱炭素社会の実現に向けた環境負荷低減の推進
- ②帰宅困難者支援など高度防災都市づくりの取組

■ A-A'断面

<キープラン>



■ B-B'断面



I. 駅・まち・公園一体の都市基盤整備による、まちへ開かれた街区の形成

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

- ①都心重要インフラ（電力・通信施設・迎賓機能等）の更新と大規模広場の整備による周辺のまちへ開かれた賑わいあふれる街区の形成
- ②地下・地上結節空間や日比谷公園とつながる道路上空公園等の整備による駅・まち・公園一体の歩行者ネットワークの形成

<現状・課題等>

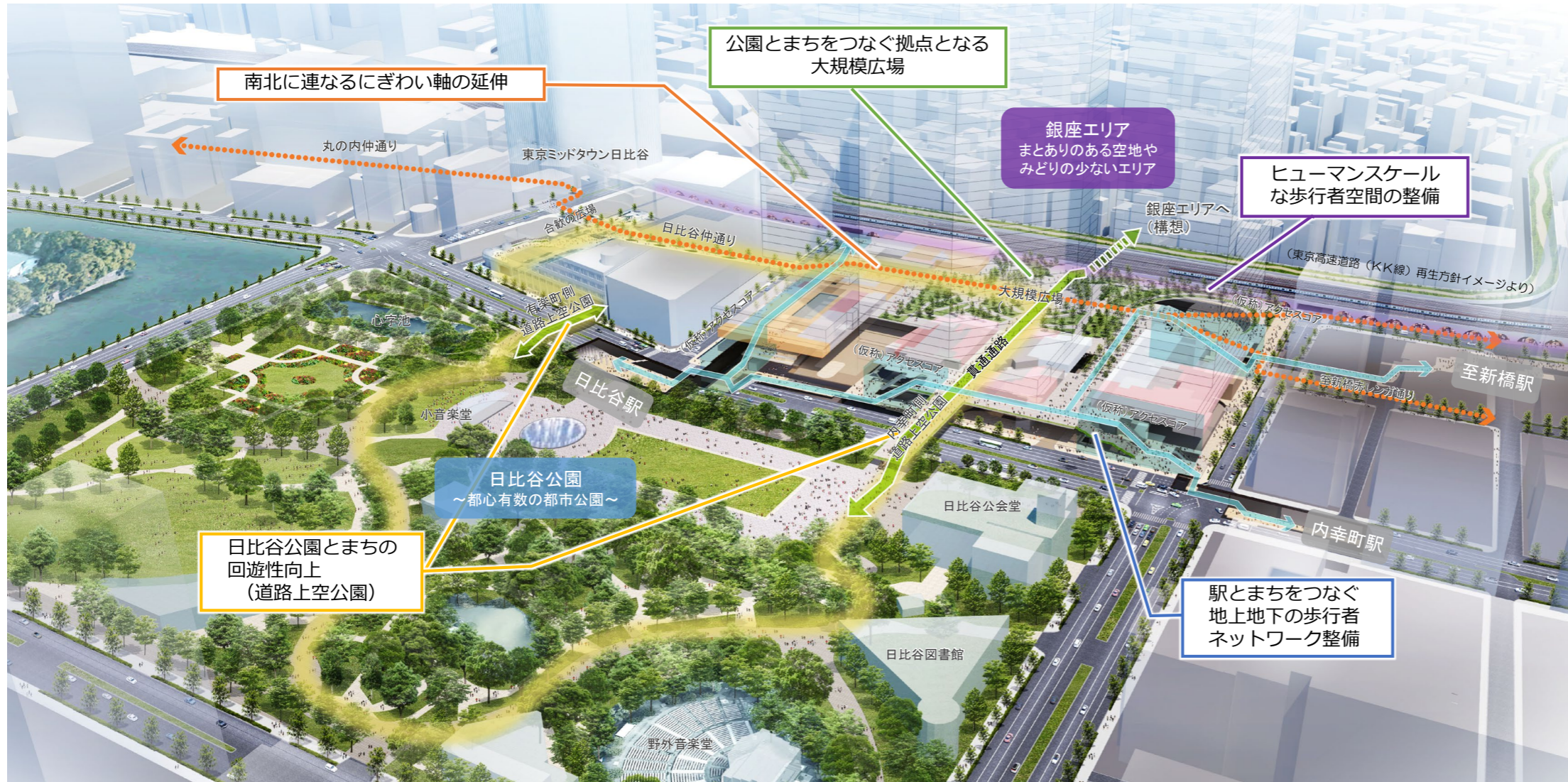
- 公共空間の不足や歩行者動線の分断により、周囲から閉ざされた街区となっている。
- 都心の中核機能を支える電力、通信施設の基幹設備を抱えている。
- 地下鉄駅が周囲に複数存在しているが、ネットワーク化されていない。
- 日比谷公園から緑を連続させ、都心の眺望を楽しめる空間の創出
(千代田区 都市計画マスタープラン)
- 周辺のまちづくりと連携して、地下やデッキ等で公園とまちを繋ぐ。
(東京都 日比谷公園ランドデザイン)

<当地区の取組・整備内容>

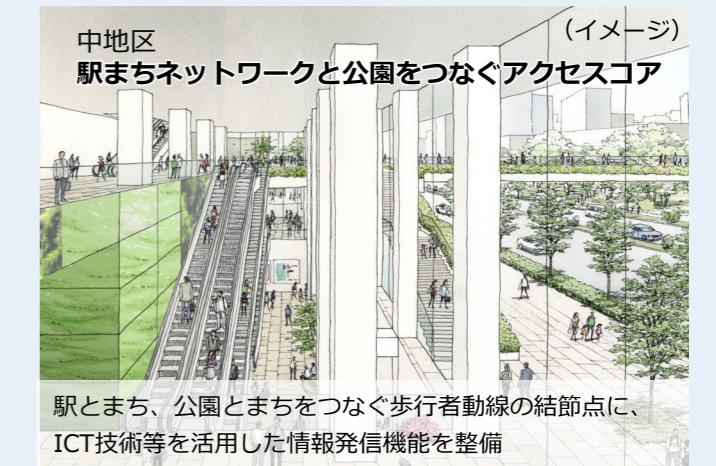
周辺に開かれた駅・まち・公園一体の都市基盤整備

- 地下鉄駅とまちをバリアフリーでつなぐネットワークと結節空間（（仮称）アクセスコア）の整備
- 公園とまちをつなぐ拠点となる大規模な広場の整備
- 新たな視点場を創出し公園とまちが立体的につながる基壇部上部の広場の整備
- 日比谷仲通りと新橋赤レンガ通りの結節する南北に連なるにぎわい軸の延伸
- 道路上空公園の整備等による公園とまちが一体となった回遊ネットワークを形成

■都市基盤整備_全体像「駅・まち・公園一体の都市基盤整備」

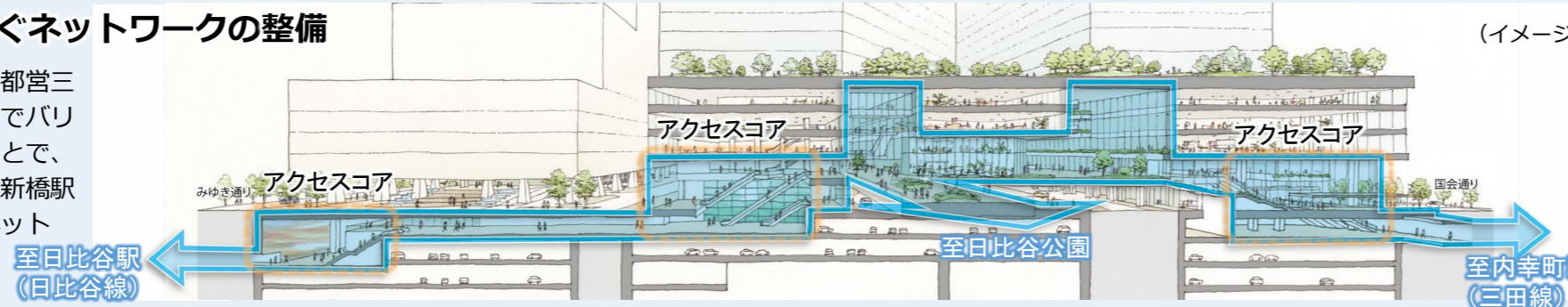


■地下鉄駅とまちをつなぐ結節空間（（仮称）アクセスコア）の整備



■地下鉄駅とまちをつなぐネットワークの整備

東京メトロ千代田線日比谷駅、都営三田線内幸町駅と接続し、街区内でバリアフリーネットワーク化することで、既に接続されている東京メトロ新橋駅も含めた駅まち一体の歩行者ネットワークを整備



I. 駅・まち・公園一体の都市基盤整備による、まちへ開かれた街区の形成

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

- ①都心重要インフラ（電力・通信施設・迎賓機能等）の更新と大規模広場の整備による周辺のまちへ開かれた賑わいあふれる街区の形成
- ②地下・地上結節空間や日比谷公園とつながる道路上空公園等の整備による駅・まち・公園一体の歩行者ネットワークの形成

■公園とまちをつなぐ拠点となる大規模な広場の整備

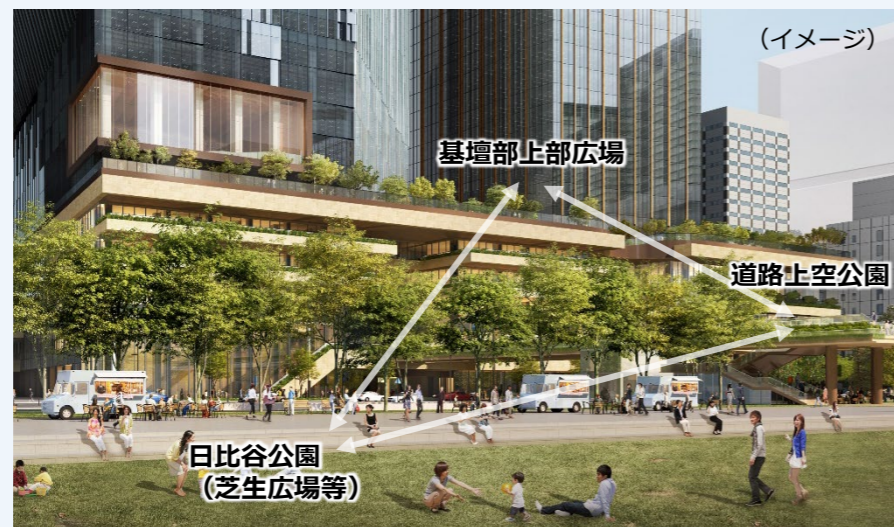
- ・建物内外一体的に多様な都市のアクティビティを受け止める大規模な広場を配置し、公園とまちをつなぐ新たな拠点を形成。
- ・東京のみどりの拠点である皇居や内濠、日比谷公園から周辺のまち（銀座方面・KK線・浜離宮等）へとつながるグリーンインフラを形成。



銀座方面(KK線)からみた大規模広場イメージ

■新たな視点場を創出し、公園とまちが立体的につながる基壇部上部の広場の整備

- ・日比谷公園に面した約31m基壇部屋上にオープンスペースやみどり等の配置することで、日比谷公園（芝生広場、道路上空公園）とまちの見る・見られるの関係性を構築し、皇居や日比谷公園からつづく快適な環境をまちに広げ、都心の眺望を楽しむ公開性の高い新たな都市の居場所を創出。



(イメージ)

■道路上空公園の整備等による公園とまちが一体となった回遊ネットワークを形成

- ・幹線道路により分断された公園とまちをつなぐ道路上空公園、公園からの人を受け止め大規模広場（銀座方面・新橋方面）につながる屋内外の広場空間等の整備により、公園とまちが連携した歩行者の回遊ネットワークを形成。



「江戸・東京の歴史を体感でき、丸の内・有楽町への玄関口となる区域」とつながり、歴史を感じられる公園のS字園路の散策・回遊がまちにつながる



「緑に包まれ誰もが思い思いに過ごし、賑わいの拠点ともなる区域」とつながる、にぎわい・憩い・散策など多様な公園機能がまちに広がる

■南北に連なるにぎわい軸の延伸

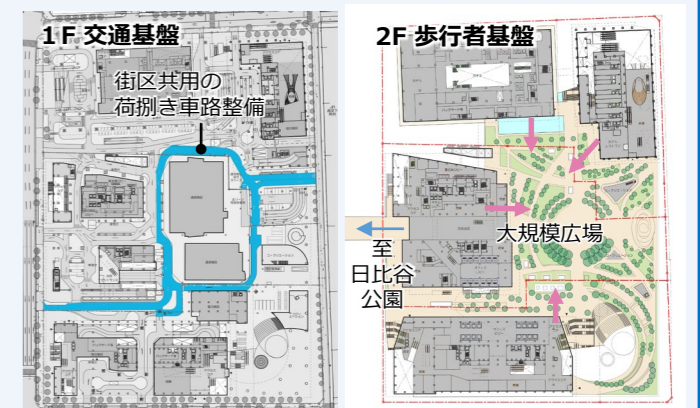
- ・日比谷仲通りと新橋赤レンガ通りをつなぐ賑わいある歩行者ネットワークを整備。
- ・南北軸に面してにぎわい空間を配置するとともに、修景施設やステップ広場等を配置することにより、にぎわいが連続する魅力ある歩行者軸を形成。



(イメージ)

■都心重要インフラの更新による立体的な都市基盤整備

- ・首都東京を支える通信・電力施設や日本を代表する国際迎賓機能を遮断することなく、街区全体で段階的に都心重要インフラ機能を更新。
- ・地上レベルに交通基盤（街区共用物流車路等）、デッキレベルに大規模広場等の歩行者基盤を配置することにより、安全・快適でまちに開かれた立体的な都市基盤を形成。



II. より高度なスマートシティの実現による国際ビジネス交流拠点の強化

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

①より高度な都市OS（情報基盤）等の整備

②都市OS（情報基盤）等を活用したビジネスサービス創造支援機能、国際迎賓文化交流機能、ウェルネス促進機能の強化

- ・ Society5.0を具現化するために、様々な分野ごとデータ連携基盤が垣根を越えてつながる分散型分野間データ連携を、世界に先駆けてAIを活用して整備し、組織や分野を超えたデータ利活用を通じて新たな価値を創出（総合イノベーション戦略（内閣府））
- ・ デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の実現に向け、先端技術等を活用した分野横断的なサービスの都市実装を目指しています。この取組を推進していくため、都内のデータや先端技術が集積するエリアにおいて、地域に密着したリアルタイムデータ・AI等を活用した複数分野のサービス展開のモデルを構築（スマート東京推進戦略（都心部））
- ・ 最先端技術を活用した情報都市空間を創出し、都市空間が最先端の情報プラットフォームとなり個人の好みやニーズに応じた情報サービス提供一人ひとりに情報の「おもてなし」をする都市、観光地や駅周辺などの観光案内施設への支援やICTを活用した多言語案内などにより、外国人をはじめとする観光客へ東京の魅力を発信（都市づくりのランドデザイン）

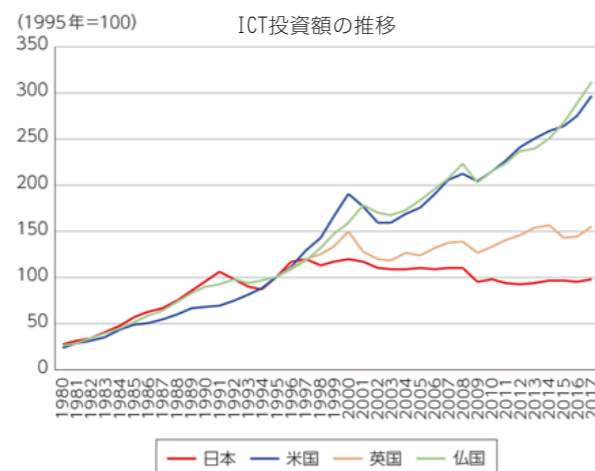
■より高度な都市OS（情報基盤）等の整備

<スマートシティ実現における現在地・課題>

- 日本は中国や欧米と比較し、スマートシティの実現が遅れており、ICTにおける投資額も低い状況となっている。（総務省（情報通信白書令和元年版））

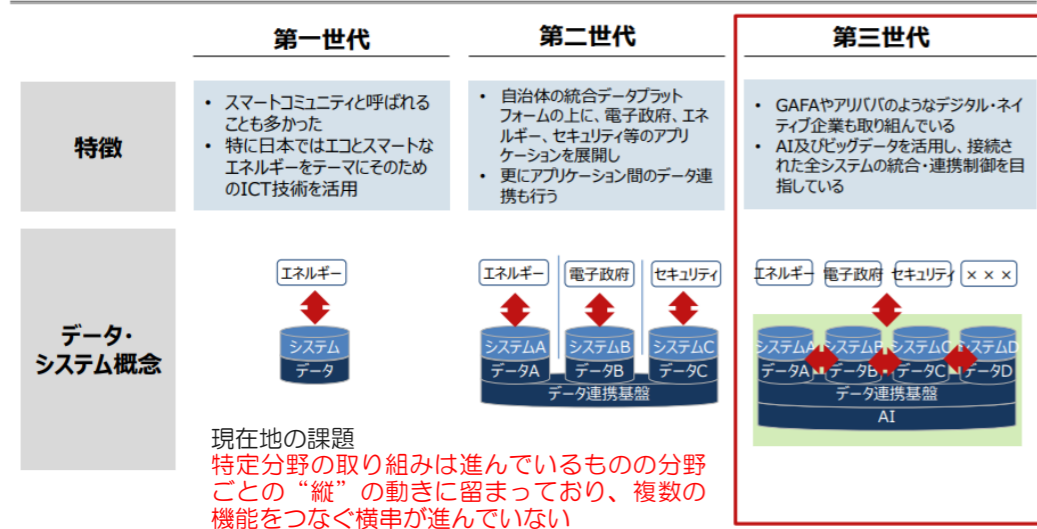
- (参考)
これまでの都市のデータ利活用上の課題
- ①個別特化したシステムとなり、他地域への横展開が難しい
 - ②分野毎にデータが独立しているため、分野間を横断したサービスが困難
 - ③システムの拡張性が低いため、継続的にサービスを進化させられない

※内閣府（スマートシティの推進に向けて）



- 日本のスマートシティの構築においては第二世代までとなっており、**第三世代の実現**がテーマとなっている。（NRI（スマートシティ報告書））

スマートシティの変遷と現在注目されているスマートシティ



<当地区の取組み>

より高度な都市OS（情報基盤）等の整備

- AI等を活用したデータの連鎖により新たな価値、サービスの提供が可能となる、より高度な都市OS（情報基盤）等を整備

- ・スマート東京の実現に向け課題とされてきた分野横断型のシミュレーション等が可能となるより高度な都市OS（情報基盤）等を街区に実装



(参考) より高度な都市OS（情報基盤）等により可能となるサービス（イメージ）

例) 天気状況、カレンダー、人流、カメラ等の情報を取得しデータを横断的にシミュレーションすることで来店予測を行い店舗での仕入れや調理量、販売数へ反映することで、廃棄ロス・フードロス削減など社会課題を解決するサービスの提供から、ダイナミックプライシングや余剰食材のシェアリングサービスなど個人に寄り添ったサービスの創出・高度化が可能となる



※開発中の内容であり、今後変更の可能性あり。一部イメージを含む。

II. より高度なスマートシティの実現による国際ビジネス交流拠点の強化

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

■都市OS（情報基盤）等を活用したビジネスサービス創造支援機能、国際迎賓文化交流機能、ウェルネス促進機能の強化

<立地特性・課題>

- 街区内に多様な企業が集積し、次世代OS（情報基盤）等の整備により様々なデータの集積が可能となる（将来的に街区周辺の特色あるビジネス集積地区等との連携も可能）
- 日本では、DXを推進していく人材の不足しており、また、DXを推進していくには多様な人材の連携が必要（IPA（IT人材白書2020））

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に必要な人材

プロダクトマネージャー	DXやデジタルビジネスの実現を主導するリーダー格の人材
ビジネスデザイナー	DXやデジタルビジネス（マーケティング含む）の企画・立案・推進等を担う人材
テックリード（エンジニアリングマネージャー、アーキテクト）	DXやデジタルビジネスに関するシステムの設計から実装ができる人材
データサイエンティスト	事業・業務に精通したデータ解析・分析ができる人材
先端技術エンジニア	機械学習、ブロックチェーンなどの先進的なデジタル技術を担う人材
UI/UXデザイナー	DXやデジタルビジネスに関するシステムのユーザー向けデザインを担当する人材
エンジニア/プログラマ	システムの実装やインフラ構築・保守等を担う人材

- 周辺エリアの芸術・文化・交流施設等の集積、観光資源を有する銀座地区との近接
- 多様なニーズに沿った宿泊滞在機能の整備
- 最先端技術を活用した情報都市空間を創出し、都市空間が最先端の情報プラットフォームとなり個人の好みやニーズに応じた情報サービス提供（都市づくりのランドデザイン）
- 一人ひとりに情報の「おもてなし」をする都市、観光地や駅周辺などの観光案内施設への支援やICTを活用した多言語案内などにより、外国人をはじめとする観光客へ東京の魅力を発信（都市づくりのランドデザイン）

- 周辺エリアとつながるウォークアブルシティを支える基盤整備（日比谷公園との回遊ネットワーク、大規模広場、南北軸など）
- 大丸有地区～新橋・虎ノ門地区を含む計画地周辺は、多くのワーカー世代が集積するエリア（昼間人口（約21万人））
- 少子高齢化時代の医療費増加は社会的な喫緊の課題であり、今後生活習慣病になりやすい40歳以降の就労者人口が増加し、若年層は健康意識が低く、健康予防の科学的エビデンスが不足している

60代が健康のためにもっと早くからやっておけばよかったと思っていること



第一生命保険経済研究所レポートより

- 現状の保険適用では回復、維持、ケアなど個人の状況に沿った健康サービスの提供を受けられない状況
※健康保険による回復期リハは適用日数上限有、介護保険は介護施設でのグループリハビリ中心など

<当地区の取組み>

ビジネス・サービス創造支援機能の整備

- DXを推進する各種人材が集まり、データやデジタル技術等を活用したビジネス・サービスの企画・開発を行う環境の整備
 - スタートアップ企業やユーザー企業、地域の多様な分野の企業の交流から国内外に情報発信を行うオープンイノベーション環境の整備
- ・社会課題の解決など新しいビジネス・サービスが創造・社会に展開され、交流～実践を通じてDXを推進する人材等の育成を促進

<取組例>

- ・ユーザー企業とDX人材のマッチングサービス、教育プログラムの提供/サロンイベント、ホールでのカンファレンスイベント（遠隔地情報発信）、新たなサービスが体験可能なショーケース、迅速にプロトタイプを開発・検証できるラボラトリー



国際迎賓文化交流機能の整備

- 周辺施設等と連携し最先端技術等を活用しリアルとバーチャルが融合した、最先端のコンテンツの育成発信
- 周辺観光資源（衣・食・住・遊・休・知・美）を活かし、パーソナライズされた情報・サービス・もてなしの提供

<取組例>

- ・遠隔地配信技術を活用した新しい表現・次世代需要への対応、地域文化拠点とのコミュニケーション、コンテンツホルダー
- ・関係機関・国内外の文化交流施設とのネットワーク連携による相互送客・情報発信



ウェルネス促進機能の整備

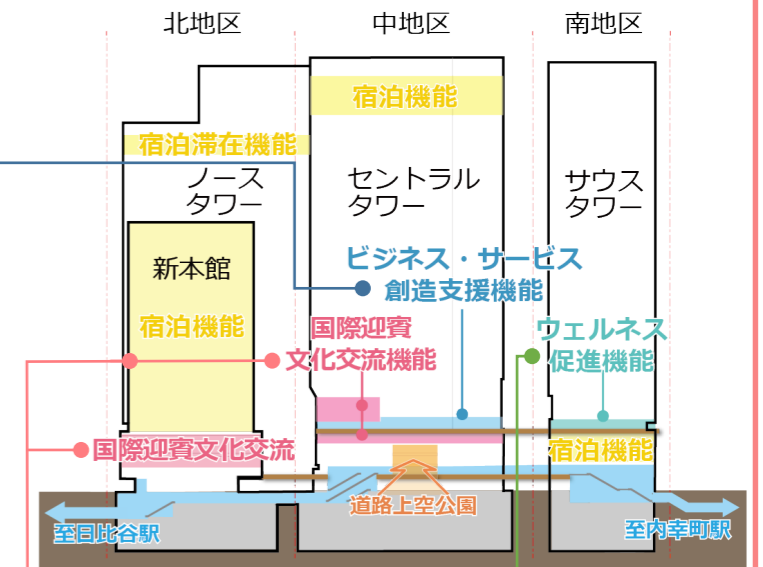
- ワーカー世代～エグゼクティブ世代まで、予防・未病・回復・維持・ケアなど個人の状況に合わせた健康サービスの提供
- ・ワーカー世代の未病・予防段階における「こころ・からだ」の健康増進プログラム、宿泊施設等と連携したエグゼクティブ世代の回復・維持サービスの提供 など
- 多様な世代の健康に関するデータ収集・分析によるエビデンス構築により、パーソナルサービスの向上から情報発信等による若年層の健康リテラシーの向上を促進する環境を整備

<取組例>

- ・専門スタッフによるカウンセリング、栄養指導、保健指導、運動指導を受けられるフィットネススタジオ、リハ・運動療法などのコンディショニングセンター
- ・AI等を活用したヴァーチャルトレーナーなどパーソナルトレーニングスタジオ
- ・ストレスを緩和するメディテーションを受けることが可能なマインドフィットネス
- ・学べる健康レストラン/ウォーキングイベント

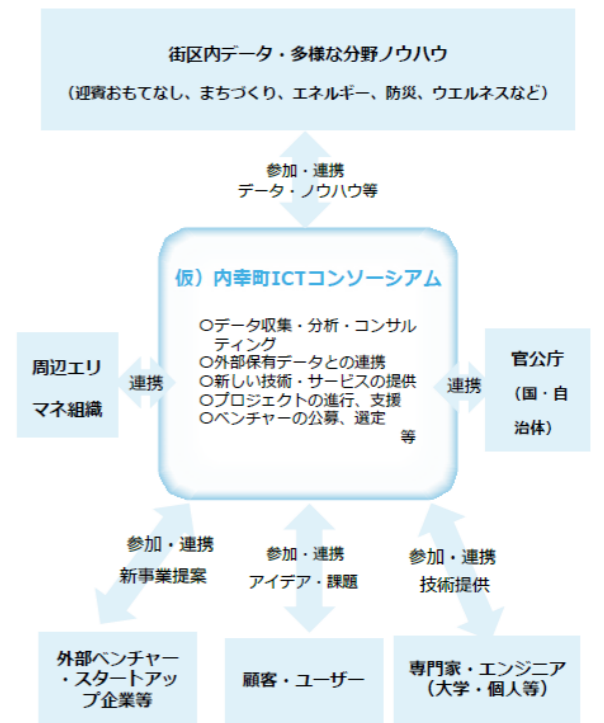


■整備イメージ



■運営体制イメージ

街区内の多様な企業やエンドユーザーなど多様な人材ノウハウが連携し、新しいサービスの創造や持続的に新たな価値創造し続けるエコシステムを構築



①脱炭素社会の実現に向けた環境負荷低減の推進

＜当地区の取組・整備内容＞

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、長期にわたる都市開発を通じて、現状技術、脱炭素社会の実現に向けた更なる技術導入検討や再エネ電力活用、熱製造の技術革新等への対応など多角的な取組み検討を進め環境負荷低減を推進

- ・面的なエネルギーネットワークの構築による環境負荷低減
- ・建物の省エネルギー化による環境負荷低減
- ・脱炭素社会の実現に向けたさらなる技術導入検討、再エネ電力活用及び熱製造の技術革新等への対応

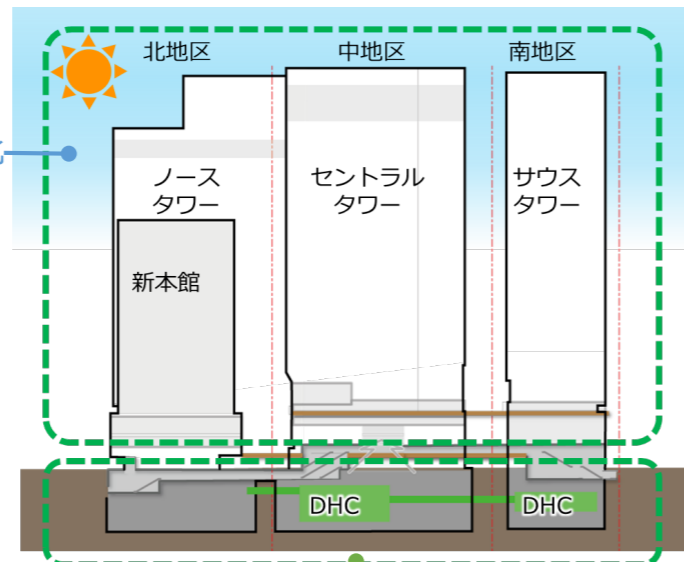
【建物の省エネルギー化】

- ・エネルギーの効率的利用
- ・建物熱負荷低減
- ・自然エネルギー利用

建物の省エネルギー化

【面的なエネルギーネットワークの構築】(DHC導入)

- ・街区内にエネルギーセンターを整備し、電力・熱供給の一元化を行いエネルギー利用の効率化を図る
- ・脱炭素を見据え電気熱源主体のエネルギーシステムを導入



面的なエネルギーネットワークの構築

【脱炭素社会の実現に向けた更なる技術導入検討】

検討例

- ・未利用エネルギー活用検討
排熱等の有効利用（給湯排熱、熱源機排熱、変電所排熱、ホテル排熱（浴室廃温水）等）
- ・ICT等を活用した高効率エネマネ導入検討
次世代都市OS等を活用し、街区全体のエネルギー需給を最適に制御（AI活用による空調のエリア影響度分析制御・換気・空調の人流予測制御、水使用量予測による保有水量制御など）
- ・熱製造の脱炭素化技術導入、化石燃料利用の縮小検討
熱回収ターボ冷凍機、給湯ヒートポンプ、化石燃料利用の常用発電機廃止、温水の低温度化等
- ・大規模蓄電池・蓄熱槽等の活用検討
平常時は再エネの変動を吸収・安定電源化に寄与し、電力逼迫時は、DRで貢献するなどエネルギー利用の効率化・再エネ普及推進に貢献

【技術革新等】

検討例

- ・カーボンリサイクル技術導入検討
- ・あらゆる再エネの活用検討
- ・高温帯熱製造の脱炭素化技術導入検討

②帰宅困難者支援など高度防災都市づくりの取組

＜当地区の取組・整備内容＞

- ・帰宅困難者支援機能の整備
- ・災害に強いエネルギーシステムの導入
- ・CCP(Community Continuity Planning)の構築など地域防災力の強化
* CCP：平時のコミュニティ向上から災害時の防災計画等など、平常時、非常時が連携した対応力強化

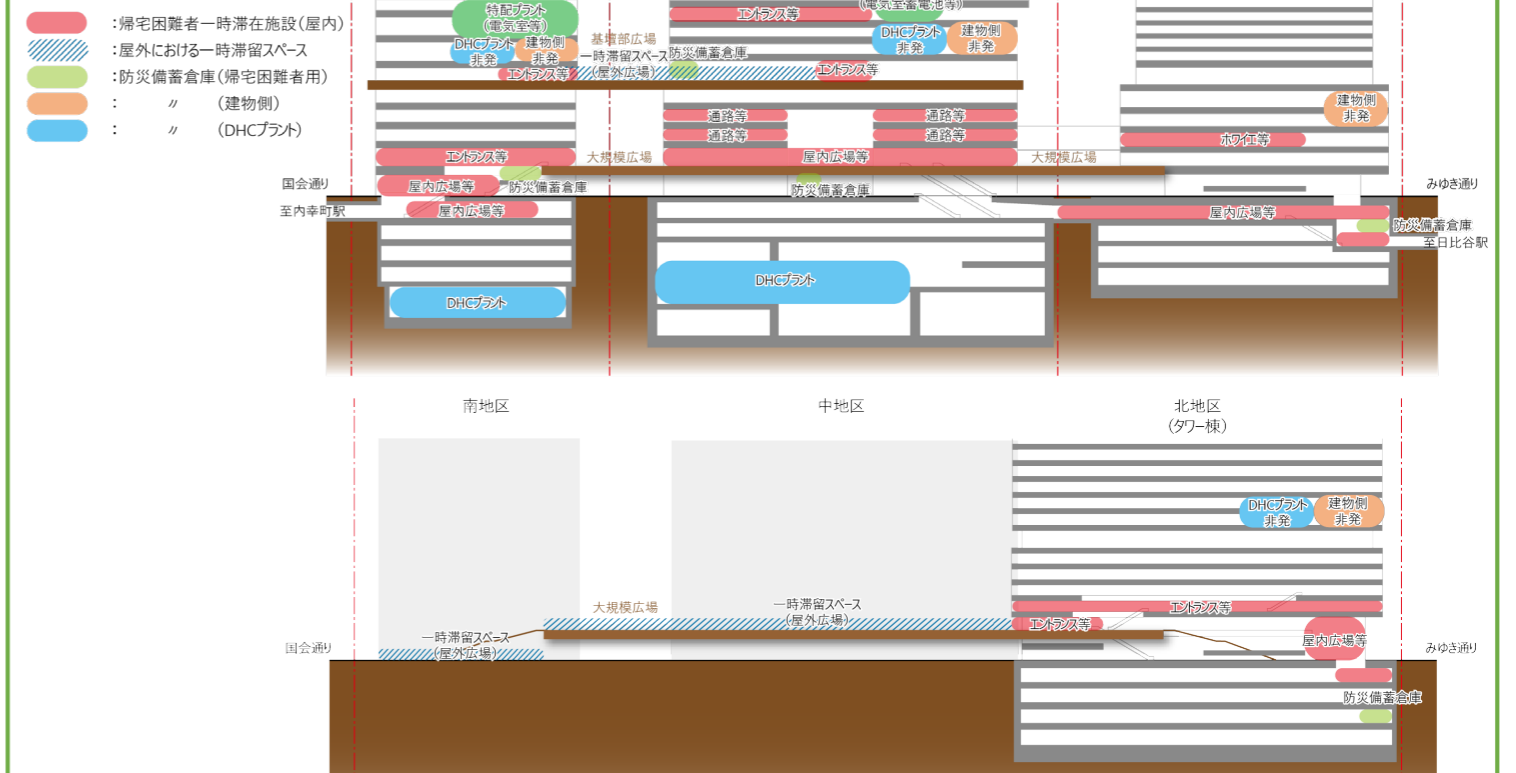
【帰宅困難者支援機能の整備】

- ・帰宅困難者の一時滞在施設を整備（約1.2ha、約7千人※受入れ可能）
※内閣府発行の帰宅困難者対策ガイドラインより床面積約3.3㎡あたり2人を目安とする
- ・帰宅困難者の3日分の災害用備蓄品を確保できる備蓄倉庫の整備、災害時のトイレ等の確保
- ・大規模広場等を活用し、震災時（地震・水害等）の一時滞留スペースを確保

【災害に強いエネルギーシステムの導入】

- ・エネルギーセンターと建物非常用発電設備の整備により、災害時においても72時間100%の電力を確保
- ・将来的に日比谷公園との連携検討（道路上空公園を活かし非常時の電力供給等）によりエリア防災性の向上

＜整備イメージ＞



【CCP(Community Continuity Planning)の構築など地域防災力の強化】

- ・平常時には街の運営を支え、災害時には共助を行うコミュニティの継続により、いつでも機能する対応力の強化
- ・最先端ICT技術等を活用し、災害時のリアルタイムシミュレーションやデジタルサイネージ等の活用による情報発信、体験型防災訓練、日常生活から学べるプログラム提供、防災人材育成など日常において「知る」ことで災害時において自然に「動く」ことができる防災まちづくりの推進

(参考) 景観形成に関する方針

※現時点での案であり、今後の詳細検討、行政協議等により変更となる可能性があります。

コンセプトⅠ 国際競争力の強化に資する新たな都心拠点にふさわしい、 調和と個性が共存した都市景観の形成

遠景

- ・周辺地区とのつながりを意識しまちをひらき、皇居周辺の重要な眺望点からの景観に配慮した配棟計画、スカイラインとする
- ・日比谷通りにおいて連続する歴史的な約31m（百尺）の表情線を延伸し、基壇部の形成による統一感ある街並みを創出する
- ・まちとしての調和と個性が共存した群としてまとまりある建物デザインとする



コンセプトⅡ 日比谷公園の機能的・景観的ひろがりと各街路の特性に応じた沿道 景観の形成

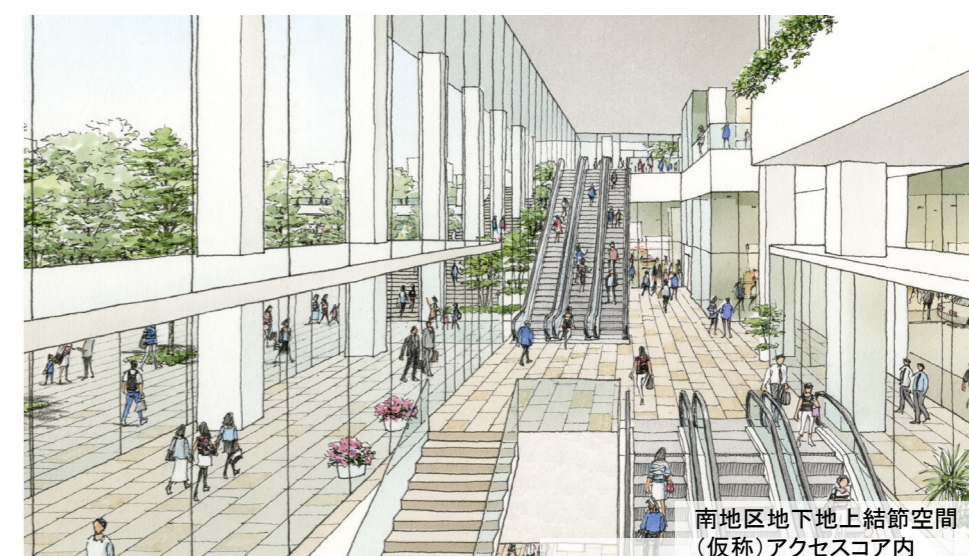
中景

- ・日比谷公園とまちが一体的に大規模な公園的空間を創出し、エリアとしての魅力を高める
- ・日比谷公園からみどりのネットワークを重層的にひろげ、東京の緑の核をさらに拡充する
- ・周辺街路の特性に配慮し、魅力向上に資する連続的な通り景観を創出する

コンセプトⅢ 潤いあるみどりと多様な都市のアクティビティが表出し体感できる空間づくりによる 公園的景観の形成

近景

- ・視認できる日比谷公園のひろがりとしてみどりとにぎわいをまちにつなぐ道路上空公園を創出する
- ・日比谷公園からつながる受けの空間では多様なパブリックスペースを創出し、まちとの回遊性を高めるとともに公園空間におけるアクティビティの可能性をひろげる
- ・大規模広場は園路がつながるような有機的なデザインと建物と連携した多様な特色あるエリアを提供することで新たな文化交流の拠点となる公園的空間を創出する
- ・基壇上部広場は日比谷公園のにぎわいの空間を立体的にひろげ、建物内部機能と連携し多様なシーンを提供する景観づくりを行う
- ・駅まち公園をつなぐ地上・地下結節点として相応しい開放的で誰にもわかりやすい魅力的な空間を形成する



コンセプト 周辺の夜景景観を意識した風格とにぎわいの演出が共存する夜景景観の創出

夜景